

生徒「食と健康」考える

栗田支援学校 ブラウ、セブンと共同講義



秋田市新屋の栗田支援学校で21日、サッカーJ2ブラウブリッツ秋田の管理栄養士と、コンビニ大手セブン-イレブン・ジャパン（東京）の社員ら計5人が、「食と健康」について講義した。中学部1、2年生の生徒36人が、栄養バランスのとれた食事や、社会問題となっている食品ロスの削減などに理解を深めた。

ブラウブリッツ専属管理栄養士の阿比留朋さん(30)は、「バ

ランスのいい食事とは？」と題し講義した。選手に提供されている食事メニューを例に挙げ、主食、主菜、副菜、果物、乳製品をそろえることが重要と呼びかけた。

セブン-イレブン・ジャパンからは北野雄一さん(39)が食品ロスについて講義。消費期限が近い商品に「エコだ値」と書かれたシールを貼り、20～100円を値下げする同社の取り組みなどを紹介した。

後半はグループワークを行った。8チームに分かれた生徒たちは、セブン-イレブンの店舗で販売されている商品名が書かれたカードを選び、バランスの良い食事メニューを作成。食品ロスの削減についても意見を出し合った。

生徒を代表して2年の高野悠真さん(14)が「食品ロスをしないために、していること、できることを知ることができて、とてもためになった。グループ活動も楽しかった」と、講師に感謝の言葉を贈った。

講義はブラウブリッツ秋田とセブン-イレブン・ジャパンが共同で実施している。「食と健康プロジェクト」の一環。食や健康に関する知識を伝え、望ましい生活習慣を実践する力を育てることを目的としている。

(小野祐一)

(令和7年1月29日(水)秋田魁新聞より一部抜粋)